

第56回 日本薬剤師会学術大会（和歌山） 展示レポート

OTC 医薬品販売に手応え

広報委員 津金澤 裕也



2023年(令和5年)9月17日(日)、18日(月・祝)、和歌山県民文化会館、和歌山城ホール、和歌山県立医科大学薬学部キャンパス、ダイワロイネットホテル和歌山、ホテルアバローム紀の国を会場に、第56回日本薬剤師会学術大会が「和の心～未来へ～」をメインテーマに開催されました。

昨年5月に新型コロナウイルス感染症の感染法上の分類が5類に変更されましたが、今大会においても現地開催およびライブ配信を併用したハイブリッド開催となりました。

協励会は和歌山城ホール1階にて展示ブースを出展しました。ブースを出展した目的は、薬剤師の先生方に協励会の活動をPRするとともに本会に興味を持っていただき、会員増加につなげることでした。

今回のテーマは「OTC販売を経営の柱に!!～患者さんの困っていることに対応できていますか?～」です。会場では協励会の組織についてや入会のメリットを記載したボードを設置し、主要取扱商品の陳列、『KYOREI』や『エルエル』誌を並

べ、新たな試みとして選定品の動画も紹介しました。

周りにはコンパニオンの女性がドリンクを配布したりカフェがあったり、マッサージ機の試行が行われたりと魅力的なブースが多く、展示開始直後は苦戦を強いられましたが、「OTC販売に興味はありませんか」とお声がけするとたくさんの薬剤師の先生が協励会ブースの前で足を止め、興味を示されました。

アンケートに答えていただきながら話を聞いていると、多くの方が「OTCを始めたいが何をしたらいいかわからない」「どのように売ったらいいかわからない」とおっしゃっていました。それを受けて、当会の研修の多さや選定品の魅力、自店での具体的な販売方法などをお話しし、協励会入会のメリットをアピールしました。

奈良支部でつくっていただいた「OTCを1日3万円売れるようにしませんか」というチラシは多くの薬剤師の先生にアピールできたようで、とても役に立ちました。

開催中には佐野智会長をはじめ多くの協励会員にブースにお立ち寄りいただき、「ぜひ会員増加につなげてください。お願いします」と激励の言葉をいただきました。直接は面識がない会員の先生でも選定品の話や共通の知り合いの先生の話で盛りあがる場所は、さすが協励会だと感じました。

例年、協励会事務局と広報委員会が主体となって行っている展示でしたが、今回は会員増加の担当部署である組織室より辻伸常任理事、日邦薬品工業(株)社員の井木直也所長、酒井聡志所長にもお手伝いいただきブースを盛りあげていただきました。また和歌山支部より小野田昌功支部長、稲田卓史副支部長にご協力いただき、地の利を生かして多くの先生を紹介していただきました。なんとか会員増加につなげようという熱心な先生が多く、休憩もほとんど取らずに来場者への案内を行いました。

来年は埼玉での開催となりますが、来年への改善点や反省点も出ており、来年の展示に向けての期待が高まります。日本薬剤師会学術大会に参加されたことがない先生も、興味のある内容の講演、展示などを探して参加してみたいかがでしょうか。

最後に多くの協励会員にお立ち寄りいただきありがとうございました。この場を借りてお礼申し上げます。



ブースに立ち寄った方にアンケートの記入をお願いする



和歌山城ホールに設けられた日本薬局協励会ブース